

和歌山県白浜町に漂着したハナゴンドウ

田 名 瀬 英 朋

Stranding Record of Risso's Dolphin on the Coast of Shirahama, Wakayama Prefecture

HIDETOMO TANASE

ハナゴンドウ *Grampus griseus* は、マイルカ科に属する暖流系の種類で、温帯から熱帯の海に広く分布している（粕谷 1980, 1984）。和歌山県では、東牟婁郡太地町において 1963 年から 1979 年の 17 年間に、熊野灘海域から 531 頭が捕獲されているが（MIYAZAKI 1980）、最近では、取引の規制をしなければ、絶滅のおそれのある種としてワシントン条約の附属書 II に掲載されている（中川 1982, 稀少水産資源保護検討委員会 1986）。

1992 年 7 月 8 日、瀬戸臨海実験所の北部海岸に、本種が 1 頭漂着した（紀伊民報 1992）。海産哺乳類の漂着は、比較的大型で目立つことから地方新聞などで報道されるが、種の判定がされないまま処分されることも多い。しかし、こういった情報も正確な種名、大きさなどが判れば、研究材料として貴重な情報になるため（吉岡・銭谷 1989）、外部形態について測定と撮影（写真 1, 2）を実施した。紀伊水道海域から捕獲や漂着の報告はないので、本データを記録しておく。

漂着場所 和歌山県西牟婁郡白浜町
京都大学理学部附属瀬戸臨海実験
所北部海岸（洞門東）

計 測 日 1992 年 7 月 11 日

測 定 値	体長	162.8 cm
	上顎吻端－眼（前端）	18.1 cm
	上顎吻端－噴気孔	19.6 cm
	上顎吻端－背鰭突起端	72.0 cm

尾鰭幅 26.0 cm

そ の 他 右体側の後半部に斜めの切傷が数本存在するが、筋肉部には達していない。表皮は約 30% が剥離している。

各部の測定は漂着 3 日目であったが、連日の高気温によって腐敗が進行しており、左体側の観察、他部分の測定、性の確認、解剖による死亡原因の追求はできなかった。



写真 1 全身



写真 2 頭部側面

中島 (1973) は、新生児の大きさを約 135 cm, 体重 30 kg と報告していることから、今回の個体は幼個体で、海上で死亡後に漂着したものと思われる。

おわりに、本種の同定について日本鯨類研究所 石川創氏に御助言いただいた。記して感謝の意を表する。

参 考 文 献

- 粕谷俊雄. 1980. イルカの生活史. アニマ, 8(9): 13-23.
- . 1980. 日本近海のイルカの識別法. アニマ, 8(9): 24-25.
- . 1984. 日本近海におけるイルカ類識別の手引(改訂版). 47pp. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 紀伊民報. 1992 年 7 月 9 日付記事.
- 稀少水産資源保護検討委員会編. 1986. 附属書 I 及び附属書 II の学名と和名の対照表, 「ワシントン条約対象動物資料」: 1-12, 日本水産資源保護協会, 東京.
- 中川志郎. 1982. 動物園, 水族館に関する法令, 「飼育ハンドブック水族館編」分類, 生態, 総論: 74-84.
- 中島将行. 1973. ハナゴンドウ. 「アニマルライフ」: 2956-2957, 日本メールオーダー社, 東京.
- MIYAZAKI, N. 1980, Catch records of cetaceans off the coast of the Kii Peninsula. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, 13: 69-82.
- 吉岡 基・銭谷亮子. 1989. 日本沿岸における鯨類のストランディング. 採集と飼育, 51(4): 164-167.